名稱

山林幽谷の雪は、三伏の暑中にも消ざる所あり、

〔爲忠朝臣家百首〕葦間雪　勘解由次官親隆

なには江のあしのあさはのゑづれこそゑたはふをしのうはきなりけれ

車中雪　木工權頭爲忠朝臣

ふる雪にあふ坂山のたびぐるまずぎのゑづりに袖ぞぬれぬる

〔八雲御抄三天象〕雪○中略ゑづり、木の雪落るなり、

〔先哲叢談五〕源君美、字在中、新井氏、小字勘解由、初名璵、號白石、

白石詩才亦爲天縱、其精工當世無敵、雖一時出遊戲、有足以見其敏警者、嘗過某許、主人書容奇二字索詩、輒援筆立就、曾下瓊鉾初試雪、紛紛五節舞容閑、一痕明月茅亭里、幾片落花滋賀山、提劍膳臣尋虎跡、捲簾清氏對龍顏、盆梅剪盡能留客、濟得隆冬無限艱、蓋容奇雪字國譯也、故此作皆采故事於此邦、

〔萬寶鄙事記六占天氣〕雪　雪ふりてきえず、これを名づけて友を俟と云、必再雪ふる、雪ふりて久しくきえず、雪の後雨なきは、來年霖雨ふる、冬雪おほく降は豐年のゑるしなり、冬數雪ふりて寒氣烈ければ、來年虫すくなし、冬雪なければ、來年五穀實らずして民にわざはひ多し、冬雪尺に滿るは、來年大きにゆたかなり、春雪は用なし、冬雪なきは、麥實のらず、

霙

霙ハ、ミゾレト云フ、舊クハ雨氷及ビ霰、霖等ノ字ヲモ訓ゼリ、雨雪相雜リテ降ルモノナリ、

〔新撰字鏡雨〕霖亡各反霖也、志久禮、又三曾禮、